

【路線名：市道中広宇品線】

番号	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の状況		備考
						内容	実施時期	
1	ヴェル八丁堀	中区八丁堀1番16、27、28	共同住宅、店舗、駐車場	別表2(3-2) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(2011年版) ただし、塔屋階は「第1次診断法」	Is=0.42 Is/Is0=0.52			耐震診断の結果(詳細):北棟 Is0=0.80 X方向 塔屋2階 Is= 1.24 塔屋1階 Is= 0.60 Y方向 塔屋2階 Is= 0.92 塔屋1階 Is= 0.42
				別表2(3-2) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(2011年版)	Is=0.07 Iq=0.23			耐震診断の結果(詳細):北棟 Is0=0.60 X方向 12階 Is= 0.52 q= 0.72 11階 Is= 0.34 q= 0.48 10階 Is= 0.25 q= 0.36 9階 Is= 0.20 q= 0.29 8階 Is= 0.17 q= 0.25 7階 Is= 0.15 q= 0.23 6階 Is= 0.07 q= 0.27 5階 Is= 0.07 q= 0.26 4階 Is= 0.07 q= 0.26 3階 Is= 0.07 q= 0.28 2階 Is= 0.07 q= 0.27 Y方向 12階 Is= 0.44 q= 1.77 11階 Is= 0.21 q= 0.83 10階 Is= 0.14 q= 0.54 9階 Is= 0.10 q= 0.41 8階 Is= 0.13 q= 0.50 7階 Is= 0.13 q= 0.53 6階 Is= 0.10 q= 0.41 5階 Is= 0.11 q= 0.44 4階 Is= 0.09 q= 0.37 3階 Is= 0.12 q= 0.47 2階 Is= 0.14 q= 0.54
				別表2(5-6) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2009年版) 鉄骨が非充腹材の場合	Is=0.24 Is/Is0=0.40 Ctu・SD=0.23			耐震診断の結果(詳細):北棟 Is0=0.60 X方向 1階 Is= 0.24 Ctu・SD= 0.23 Y方向 1階 Is= 0.35 Ctu・SD= 0.34
				別表2(3-2) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(2011年版) ただし、塔屋階は「第1次診断法」	Is=0.21 Is/Is0=0.26			耐震診断の結果(詳細):南棟 Is0=0.80 X方向 塔屋2階 Is= 0.86 塔屋1階 Is= 0.21 Y方向 塔屋2階 Is= 1.08 塔屋1階 Is= 0.51
				別表2(3-2) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(2011年版)	Is=0.07 q=0.25			耐震診断の結果(詳細):南棟 Is0=0.60 X方向 12階 Is= 0.40 q= 1.60 11階 Is= 0.24 q= 0.96 10階 Is= 0.17 q= 0.69 9階 Is= 0.14 q= 0.54 8階 Is= 0.16 q= 0.64 7階 Is= 0.16 q= 0.65 6階 Is= 0.13 q= 0.52 5階 Is= 0.14 q= 0.56 4階 Is= 0.12 q= 0.47 3階 Is= 0.14 q= 0.56 2階 Is= 0.13 q= 0.50 Y方向 12階 Is= 0.30 q= 0.42 11階 Is= 0.38 q= 0.53 10階 Is= 0.29 q= 0.41 9階 Is= 0.23 q= 0.33 8階 Is= 0.19 q= 0.28 7階 Is= 0.17 q= 0.25 6階 Is= 0.08 q= 0.30 5階 Is= 0.07 q= 0.29 4階 Is= 0.07 q= 0.29 3階 Is= 0.07 q= 0.29 2階 Is= 0.07 q= 0.27
				別表2(5-6) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2009年版) 鉄骨が非充腹材の場合	Is=0.29 Is/Is0=0.48 Ctu・SD=0.28			耐震診断の結果(詳細):南棟 Is0=0.60 X方向 1階 Is= 0.31 Ctu・SD= 0.30 Y方向 1階 Is= 0.29 Ctu・SD= 0.28

【路線名：市道中広宇品線】

番号	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の状況		備考
						内容	実施時期	
2	森川ビル	中区鉄砲町1番地15	事務所、住宅、店舗、美容室	別表2(3-2) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(2011年版)	Is=0.003 q=0.01			耐震診断の結果(詳細) Is _o =0.60 X方向 6階 Is= 0.08 q= 0.30 5階 Is= 0.09 q= 0.36 4階 Is= 0.09 q= 0.37 3階 Is= 0.09 q= 0.37 2階 Is= 0.09 q= 0.37 1階 Is= 0.09 q= 0.37 Y方向 6階 Is= 0.003 q= 0.01 5階 Is= 0.006 q= 0.02 4階 Is= 0.006 q= 0.02 3階 Is= 0.006 q= 0.02 2階 Is= 0.006 q= 0.02 1階 Is= 0.006 q= 0.02
3	第3ウエノヤビル【事務所棟(本館)】	中区鉄砲町1番地12、1番地13	事務所、店舗	別表2(3-2) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(2011年版) ただし、塔屋2階、塔屋1階は「第1次診断法」	Is=0.58			耐震診断の結果(詳細) Is _o =0.80 X方向 塔屋2階 Is= 0.99 塔屋1階 Is= 0.58 Y方向 塔屋2階 Is= 1.81 塔屋1階 Is= 1.01
				別表2(3-2) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(2011年版)	Is=0.03 q=0.13			耐震診断の結果(詳細) Is _o =0.60 X方向 10階 Is= 0.61 q= 1.01 9階 Is= 0.32 q= 0.54 8階 Is= 0.25 q= 0.42 7階 Is= 0.34 q= 0.52 6階 Is= 0.25 q= 0.41 5階 Is= 0.26 q= 0.45 4階 Is= 0.24 q= 0.41 3階 Is= 0.46 q= 0.57 2階 Is= 0.34 q= 0.45 1階 Is= 0.03 q= 0.13 Y方向 10階 Is= 0.47 q= 0.77 9階 Is= 0.25 q= 0.41 8階 Is= 0.19 q= 0.34 7階 Is= 0.26 q= 0.45 6階 Is= 0.21 q= 0.37 5階 Is= 0.25 q= 0.42 4階 Is= 0.23 q= 0.38 3階 Is= 0.32 q= 0.49 2階 Is= 0.30 q= 0.46 1階 Is= 0.13 q= 0.13

【路線名：市道中広宇品線】

番号	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の状況		備考
						内容	実施時期	
4	第3ウエノヤビル【駐車場棟(駐車場)】	中区鉄砲町1番地14	事務所、 駐車場	別表2(3-2) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」 (2011年版)	Is=0.30 q=0.87			耐震診断の結果(詳細):事務所 Is _o =0.60 X方向 10階 Is=0.33 q=1.02 9階 Is=0.33 q=1.02 8階 Is=0.33 q=1.02 7階 Is=0.33 q=1.02 6階 Is=0.33 q=1.02 5階 Is=0.33 q=1.02 4階 Is=0.33 q=1.02 3階 Is=0.33 q=1.02 2階 Is=0.33 q=1.02 1階 Is=0.33 q=1.02 Y方向 10階 Is=1.21 q=2.04 9階 Is=0.81 q=1.05 8階 Is=0.69 q=0.98 7階 Is=0.59 q=0.97 6階 Is=0.55 q=0.88 5階 Is=0.52 q=0.87 4階 Is=0.77 q=1.26 3階 Is=1.03 q=1.31 2階 Is=1.12 q=1.42 1階 Is=0.30 q=1.02
								耐震診断の結果(詳細):駐車場 Is _o =0.60 X方向 12階 Is=0.14 q=0.60 11階 Is=0.13 q=0.57 10階 Is=0.14 q=0.60 9階 Is=0.14 q=0.60 8階 Is=0.14 q=0.60 7階 Is=0.14 q=0.60 6階 Is=0.14 q=0.60 5階 Is=0.14 q=0.60 4階 Is=0.14 q=0.60 3階 Is=0.14 q=0.60 2階 Is=0.14 q=0.60 1階 Is=0.07 q=0.32 Y方向 12階 Is=0.34 q=1.38 11階 Is=0.34 q=1.38 10階 Is=0.34 q=1.38 9階 Is=0.34 q=1.38 8階 Is=0.34 q=1.38 7階 Is=0.34 q=1.38 6階 Is=0.34 q=1.38 5階 Is=0.34 q=1.38 4階 Is=0.34 q=1.38 3階 Is=0.34 q=1.38 2階 Is=0.34 q=1.38 1階 Is=0.34 q=1.38

【路線名：市道中広宇品線】

番号	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の状況		備考
						内容	実施時期	
5	新京橋ビル	南区京橋町1番地1	店舗、住宅、事務所	別表2(3-2) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(2011年版)	Is=0.11 q=0.41			耐震診断の結果(詳細) Iso=0.60 X方向 塔屋 階 Is = 0.39 q = 1.31 9 階 Is = 0.25 q = 0.83 8 階 Is = 0.16 q = 0.53 7 階 Is = 0.18 q = 0.61 6 階 Is = 0.31 q = 0.69 5 階 Is = 0.25 q = 0.56 4 階 Is = 0.32 q = 0.70 3 階 Is = 0.36 q = 0.80 2 階 Is = 0.29 q = 0.63 1 階 Is = 0.26 q = 1.05 Y方向 塔屋 階 Is = 0.49 q = 1.66 9 階 Is = 0.20 q = 0.67 8 階 Is = 0.11 q = 0.38 7 階 Is = 0.13 q = 0.43 6 階 Is = 0.22 q = 0.47 5 階 Is = 0.18 q = 0.41 4 階 Is = 0.22 q = 0.48 3 階 Is = 0.24 q = 0.54 2 階 Is = 0.22 q = 0.48 1 階 Is = 0.25 q = 0.99
6	コーポ駅前	南区京橋町2番地29、2番地27、2番地28	駐車場、共同住宅	別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2017年版) ただし、塔屋2階、塔屋1階は「第1次診断法」	Is=1.39 Is/Is0=1.73			耐震診断の結果(詳細) Iso=0.80 X方向 塔屋2 階 Is = 1.55 塔屋1 階 Is = 1.39 Y方向 塔屋2 階 Is = 2.33 塔屋1 階 Is = 2.20
				別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2017年版)	Is=0.32 Is/Is0=0.53 Ctu・SD=0.30		耐震診断の結果(詳細) Iso=0.80 X方向 7 階 Is = 1.22 Ctu・SD = 1.21 6 階 Is = 0.84 Ctu・SD = 0.84 5 階 Is = 0.92 Ctu・SD = 0.92 4 階 Is = 0.76 Ctu・SD = 0.77 3 階 Is = 0.72 Ctu・SD = 0.73 2 階 Is = 0.79 Ctu・SD = 0.79 1 階 Is = 0.76 Ctu・SD = 0.77 Y方向 7 階 Is = 0.48 Ctu・SD = 0.49 6 階 Is = 0.36 Ctu・SD = 0.36 5 階 Is = 0.32 Ctu・SD = 0.32 4 階 Is = 0.34 Ctu・SD = 0.35 3 階 Is = 0.42 Ctu・SD = 0.42 2 階 Is = 0.35 Ctu・SD = 0.35 1 階 Is = 0.33 Ctu・SD = 0.30	
7	第2シモビル	南区宇品東二丁目970番地62、63	店舗、駐車場、共同住宅	別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版) ただし、塔屋階は「第1次診断法」	Is=1.22 Is/Is0=1.69			耐震診断の結果(詳細) Iso=0.72 X方向 塔屋 階 Is = 1.22 Y方向 塔屋 階 Is = 1.42
				別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is=0.19 Is/Is0=0.35 Ctu・SD=0.21		耐震診断の結果(詳細) Iso=0.54 X方向 6 階 Is = 0.47 Ctu・SD = 0.50 5 階 Is = 0.39 Ctu・SD = 0.42 4 階 Is = 0.38 Ctu・SD = 0.40 3 階 Is = 0.31 Ctu・SD = 0.33 2 階 Is = 0.31 Ctu・SD = 0.33 1 階 Is = 0.28 Ctu・SD = 0.30 Y方向 6 階 Is = 0.56 Ctu・SD = 0.59 5 階 Is = 0.29 Ctu・SD = 0.30 4 階 Is = 0.27 Ctu・SD = 0.29 3 階 Is = 0.19 Ctu・SD = 0.21 2 階 Is = 0.20 Ctu・SD = 0.21 1 階 Is = 0.19 Ctu・SD = 0.21	

【路線名：市道中広宇品線】

番号	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の状況		備考
						内容	実施時期	
8	セントラル瀬戸内	中区十日市町二丁目1番地25	事務所、共同住宅	別表2(3-2) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(2011年版)	Is=0.09 q=0.39			耐震診断の結果(詳細) Iso=0.60 X方向 塔屋 階 Is= 0.10 q= 0.41 11 階 Is= 0.39 q= 1.59 10 階 Is= 0.20 q= 0.83 9 階 Is= 0.19 q= 0.76 8 階 Is= 0.16 q= 0.66 7 階 Is= 0.19 q= 0.76 6 階 Is= 0.17 q= 0.68 5 階 Is= 0.19 q= 0.79 4 階 Is= 0.18 q= 0.72 3 階 Is= 0.20 q= 0.82 2 階 Is= 0.19 q= 0.77 1 階 Is= 0.11 q= 0.45 Y方向 塔屋 階 Is= 0.07 q= 0.31 11 階 Is= 0.27 q= 1.10 10 階 Is= 0.16 q= 0.66 9 階 Is= 0.16 q= 0.66 8 階 Is= 0.15 q= 0.60 7 階 Is= 0.17 q= 0.71 6 階 Is= 0.15 q= 0.62 5 階 Is= 0.18 q= 0.72 4 階 Is= 0.16 q= 0.94 3 階 Is= 0.18 q= 0.72 2 階 Is= 0.17 q= 0.68 1 階 Is= 0.09 q= 0.39
				別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2017年版)				Is=0.44 Is/Is0=0.81 Ctu・SD=0.59
9	草本ビル	西区中広町二丁目28番地6	共同住宅	別表2(4-1) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第1次診断法」により想定する地震動に対して所要の耐震性を確保していることを確認する方法	Is=1.08 Is/Is0=1.35			耐震診断の結果(詳細) Iso=0.80 X方向 塔屋 階 Is= 1.08 Y方向 塔屋 階 Is= 2.42
				別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2017年版)				Is=0.17 Is/Is0=0.28 Ctu・SD=0.24

【路線名：市道中広宇品線】

番号	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の状況		備考	
						内容	実施時期		
10	中特会館	中区幟町3番地10	レストラン、 事務室、 住宅	別表2(4-1) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第1次診断法」により想定する地震動に対して所要の耐震性を確保していることを確認する方法	Is=0.75 Is/Is0=1.04			耐震診断の結果(詳細) Iso=0.72 X方向 塔屋2階 Is= 1.40 塔屋1階 Is= 0.75 Y方向 塔屋2階 Is= 2.04 塔屋1階 Is= 0.91	
								耐震診断の結果(詳細) Iso=0.54 X方向 6階 Is= 0.48 Ctu・SD= 0.60 5階 Is= 0.34 Ctu・SD= 0.43 4階 Is= 0.58 Ctu・SD= 0.58 3階 Is= 0.40 Ctu・SD= 0.50 2階 Is= 0.27 Ctu・SD= 0.33 Y方向 1階 Is= 0.30 Ctu・SD= 0.37 6階 Is= 2.17 Ctu・SD= 2.19 5階 Is= 1.49 Ctu・SD= 1.50 4階 Is= 0.97 Ctu・SD= 0.98 3階 Is= 0.79 Ctu・SD= 0.79 2階 Is= 0.68 Ctu・SD= 0.82 1階 Is= 0.86 Ctu・SD= 0.86	
								耐震診断の結果(詳細) Iso=0.54 X方向 地下階 Is= 3.11 Y方向 地下階 Is= 2.10	
11	大阪工機広島ビル	中区本川町三丁目1番地7	事務所	別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2017年版) ただし、地下階は「第1次診断法」	Is=0.57 Is/Is0=0.79			耐震診断の結果(詳細) Iso=0.72 X方向 塔屋階 Is= 0.88 Y方向 塔屋階 Is= 0.57	
								耐震診断の結果(詳細) Iso=0.54 X方向 5階 Is= 0.42 Ctu・SD= 0.18 4階 Is= 0.31 Ctu・SD= 0.14 3階 Is= 0.33 Ctu・SD= 0.15 2階 Is= 0.14 Ctu・SD= 0.14 Y方向 1階 Is= 0.19 Ctu・SD= 0.20 5階 Is= 0.22 Ctu・SD= 0.22 4階 Is= 0.21 Ctu・SD= 0.21 3階 Is= 0.24 Ctu・SD= 0.25 2階 Is= 0.26 Ctu・SD= 0.26 1階 Is= 0.22 Ctu・SD= 0.22	
12	広島鴻池ビル	中区八丁堀2番1、2番地10	事務所	別表2(5-6) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2009年版) 鉄骨が充腹材の場合	Is=0.57 Is/Is0=1.05 Ctu・SD=0.34		耐震改修済	-	耐震診断の結果(詳細) Iso=0.54
13	井上ビル	中区上八丁堀8番15、16	駐車場、 事務所	別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版) ただし、塔屋2階、塔屋1階は「第1次診断法」	Is=0.59 Is/Is0=0.73			耐震診断の結果(詳細) Iso=0.80 X方向 塔屋2階 Is= 1.40 塔屋1階 Is= 0.59 Y方向 塔屋2階 Is= 1.31 塔屋1階 Is= 0.71	
								耐震診断の結果(詳細) Iso=0.60 X方向 6階 Is= 0.11 Ctu・SD= 0.13 5階 Is= 0.39 Ctu・SD= 0.37 4階 Is= 0.29 Ctu・SD= 0.27 3階 Is= 0.25 Ctu・SD= 0.23 2階 Is= 0.22 Ctu・SD= 0.21 Y方向 1階 Is= 0.32 Ctu・SD= 0.30 6階 Is= 0.17 Ctu・SD= 0.20 5階 Is= 0.34 Ctu・SD= 0.40 4階 Is= 0.30 Ctu・SD= 0.35 3階 Is= 0.25 Ctu・SD= 0.30 2階 Is= 0.24 Ctu・SD= 0.28 1階 Is= 0.47 Ctu・SD= 0.44	

【路線名：市道中広宇品線】

番号	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の状況		備考
						内容	実施時期	
14	安芸リーガルビル	中区上八丁堀8番地12	事務所	別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版) ただし、塔屋階は「第1次診断法」	Is=0.39 Is/Is0=0.54			耐震診断の結果(詳細) Is0=0.72 X方向 塔屋 階 Is = 0.89 Y方向 塔屋 階 Is = 0.39
				別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is=0.22 Is/Is0=0.40 Ctu・SD=0.26			耐震診断の結果(詳細) Is0=0.54 X方向 5階 Is = 1.83 Ctu・SD = 2.10 4階 Is = 1.21 Ctu・SD = 1.40 3階 Is = 1.51 Ctu・SD = 1.74 2階 Is = 1.31 Ctu・SD = 1.51 1階 Is = 1.51 Ctu・SD = 1.74 Y方向 5階 Is = 0.40 Ctu・SD = 0.30 4階 Is = 0.25 Ctu・SD = 0.29 3階 Is = 0.23 Ctu・SD = 0.26 2階 Is = 0.22 Ctu・SD = 0.26 1階 Is = 0.24 Ctu・SD = 0.28
15	クロスタワー	中区上八丁堀8-10	事務所	別表2(5-4) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(1983年版)	Is=0.58 Is/Is0=1.07		-	耐震診断の結果(詳細) Is0=0.54
16	第三光ビル	中区上織町10番地7	事務所、 共同住宅、 店舗	別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版) ただし、塔屋階は「第1次診断法」	Is=2.34 Is/Is0=2.92			耐震診断の結果(詳細) Is0=0.80 X方向 塔屋 階 Is = 2.34 Y方向 塔屋 階 Is = 2.58
				別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is=0.16 Is/Is0=0.26 Ctu・SD=0.15			耐震診断の結果(詳細) Is0=0.60 X方向 7階 Is = 0.26 Ctu・SD = 0.24 6階 Is = 0.34 Ctu・SD = 0.31 5階 Is = 0.18 Ctu・SD = 0.17 4階 Is = 0.16 Ctu・SD = 0.15 3階 Is = 0.16 Ctu・SD = 0.16 2階 Is = 0.19 Ctu・SD = 0.18 1階 Is = 0.19 Ctu・SD = 0.18 Y方向 7階 Is = 0.77 Ctu・SD = 0.71 6階 Is = 0.51 Ctu・SD = 0.47 5階 Is = 0.30 Ctu・SD = 0.28 4階 Is = 0.27 Ctu・SD = 0.26 3階 Is = 0.21 Ctu・SD = 0.20 2階 Is = 0.23 Ctu・SD = 0.21 1階 Is = 0.36 Ctu・SD = 0.33

【路線名：市道中広宇品線】

番号	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の状況		備考
						内容	実施時期	
17	第3旭東ビル	中区幡町2番26号	駐車場、店舗、事務所、住宅、共同住宅	別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is=0.26 Is/Is0=0.43 Ctu・SD=0.17			耐震診断の結果(詳細) Is0=0.60 X方向 塔屋 階 Is= 0.48 Ctu・SD= 0.35 7 階 Is= 0.70 Ctu・SD= 0.66 6 階 Is= 0.52 Ctu・SD= 0.35 Y方向 塔屋 階 Is= 0.26 Ctu・SD= 0.17 7 階 Is= 1.49 Ctu・SD= 1.41 6 階 Is= 0.91 Ctu・SD= 0.87
				別表2(5-6) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2009年版) 鉄骨が先腹材の場合	Is=0.16 Is/Is0=0.26 Ctu・SD=0.07			耐震診断の結果(詳細) Is0=0.60 X方向 5 階 Is= 0.32 Ctu・SD= 0.32 4 階 Is= 0.75 Ctu・SD= 0.56 3 階 Is= 0.36 Ctu・SD= 0.10 2 階 Is= 0.25 Ctu・SD= 0.07 Y方向 1 階 Is= 0.30 Ctu・SD= 0.11 5 階 Is= 0.16 Ctu・SD= 0.16 4 階 Is= 0.78 Ctu・SD= 0.58 3 階 Is= 0.25 Ctu・SD= 0.11 2 階 Is= 0.25 Ctu・SD= 0.19 1 階 Is= 0.61 Ctu・SD= 0.46
18	天竜旅館	南区京橋町3番地12	旅館	別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is=0.07 Is/Is0=0.11 Ctu・SD=0.07			耐震診断の結果(詳細) Is0=0.60 X方向 5 階 Is= 0.07 Ctu・SD= 0.07 4 階 Is= 0.33 Ctu・SD= 0.44 3 階 Is= 0.19 Ctu・SD= 0.27 2 階 Is= 0.15 Ctu・SD= 0.21 1 階 Is= 0.12 Ctu・SD= 0.18 Y方向 5 階 Is= 0.34 Ctu・SD= 0.37 4 階 Is= 0.54 Ctu・SD= 0.59 3 階 Is= 0.35 Ctu・SD= 0.38 2 階 Is= 0.32 Ctu・SD= 0.35 1 階 Is= 0.22 Ctu・SD= 0.30

耐震診断の結果と構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価(抜粋)

別表2

耐震診断の方法		構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性			
		I	II	III	
		I. 地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い。	II. 地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある。	III. 地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い。	
(3-2)	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(1996年版、2011年版)	$I_s < 0.3$ 又は $q < 0.5$	左右以外の場合	$0.6 \leq I_s$ かつ $1.0 \leq q$	
(4-1)	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第1次診断法」により想定する地震動に対して所要の耐震性を確保していることを確認する方法	—	—	$1.0 \leq I_s / I_{so}$	
(5-3)	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2001年版、2017年版)	$I_s / I_{so} < 0.5$ 又は $C_{tu} \cdot SD < 0.15 \cdot Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s / I_{so}$ かつ $0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq C_{tu} \cdot SD$	
(5-4)	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(1983年版)	$I_s / I_{so} < 0.5$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s / I_{so}$	
(5-5)	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(1997年版)	鉄骨が充腹材の場合	$I_s / I_{so} < 0.5$ 又は $C_{tu} \cdot SD < 0.125 \cdot Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s / I_{so}$ かつ $0.25 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq C_{tu} \cdot SD$
		鉄骨が非充腹材の場合	$I_s / I_{so} < 0.5$ 又は $C_{tu} \cdot SD < 0.14 \cdot Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s / I_{so}$ かつ $0.28 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq C_{tu} \cdot SD$
(5-6)	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2009年版)	鉄骨が充腹材の場合	$I_s / I_{so} < 0.5$ 又は $C_{tu} \cdot SD < 0.125 \cdot Z \cdot R_t \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s / I_{so}$ かつ $0.25 \cdot Z \cdot R_t \cdot G \cdot U \leq C_{tu} \cdot SD$
		鉄骨が非充腹材の場合	$I_s / I_{so} < 0.5$ 又は $C_{tu} \cdot SD < 0.14 \cdot Z \cdot R_t \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s / I_{so}$ かつ $0.28 \cdot Z \cdot R_t \cdot G \cdot U \leq C_{tu} \cdot SD$
(6)	一般財団法人建築保全センターによる「官庁施設の総合耐震診断基準」		$Q_u / \alpha \cdot Q_{un} < 0.5$	$0.5 \leq Q_u / \alpha \cdot Q_{un} < 1.0$	$1.0 \leq Q_u / \alpha \cdot Q_{un}$ かつ $GIS < 1.0$
					$1.0 \leq GIS$

※別表1、2の構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性については震度6強から7に達する程度の大規模の地震に対する安全性を示す。いずれの区分に該当する場合であっても、違法に建築されたものや劣化が放置されたものでない限りは、震度5強程度の中規模地震に対しては損傷が生ずるおそれは少なく、倒壊するおそれはない。

※別表2に掲げる耐震診断の方法のうち、(4-1)から(5-6)、(11)、(12)の方法における安全性の区分については、補正係数(表中のU及びI_{so}を算出する際に用いるU)を1.0とした場合を示している。